



No.295
2014年2月20日

発行 真宗大谷派 高山教務所
発行者 大町慶華
〒506-0857 高山市鉄砲町6番地
☎(0577)32-0776
*毎月20日発行 50,000部
三市一郡無料配布
印刷 山都印刷株式会社

念じられ 照らされて

同座と談合の伝統

三島清圓



〔略歴〕
一九四九年生まれ。神奈川県より大谷大学哲学科編入。卒業後、開教使として渡米。現在高山教区西念寺住職。本山同朋会館教導。

「特定秘密保護法案」が国会で可決した。

共同通信のアンケートによれば、修正・反対を含めて国民の八十パーセント近くがこの法案に異議をとらえたという。その法案がなぜこうも簡単に国会を通過していくのか、わたしはその不合理を子どもに説明できない。やがて国家の秘密を守るという名目で国民の言論が監視されることになるだろう。

子どもの頃「なぜ大人は戦争に反対しなかったんや」と父にたずねたことがある。「気づいた時

はもう遅かった。軍部の批判をチラッとでも言うものなら、翌日、警察が寺をたずねてきた」という返事がかえってきた。

それを境に飛騨の言論は静まり返ったと聞く。悲惨な戦争を経験した日本は、二度とあの暗鬱な時代に逆もどりするほど愚かではないと信じている。しかし「反対デモはテロだ」という石破幹事長の発言は、だからつぶしてもかまわないと受けとれ、正直ゾツとした。

世の中にはいろんな思想の人がいるからこそいい。いかなる政治思想を持っていても留置場にぶち込まれることはない。しかし

それら互いに「言論の自由」があればこそ話だ。蓮如上人の頃に村落が生まれた。それを惣村(そうそん)という。その仕組みは「宮座」によってできていた。宮座は上座・中座・下座の三つに分かれた身分制度で、その三つにも入れない階層を座外の奴らとよんだ。下座の者は上座の者に迂闊にもも言えなかつたのである。この宮座的身分制社会に何と蓮如上人が乱入したのである。そして宮座をブチこわして同座・談合を命がけで人々に説いた。

同座とは弥陀の本願の

前には貴賤の別なく「共にこれ凡夫」であるから、上下の座をやめて丸く座れということであり、談合とは身分にかまわず誰も彼も「ものを言え、言え」ということである。当時、穢れたものとして宮座からは除外されていた女性も蓮如上人は迷わずその中に入れた。さらに「黙っているものはおそろしい」と言って秘密と遠慮をゆるさなかった。つまり日本最初の民主主義を広めたのはマッカーサーではなく蓮如上人ののだ。

真宗は今もこの伝統を受け継ぐ。一人一人の政治的立場や思想はさまざまあればあれ、その底には自由な同座・談合の五百年の伝統の血が今でも脈々と流れている。風呂屋でポロツと漏らした政治批判を告げ口されて、翌日憲兵に引かれた父の時代だけは、もう二度と繰り返してはならない。

合掌



戦時中に配られた湯呑み。蓋に「スパイに用心」と刻まれている。人々は声をひそめ、向こう三軒両隣に疑心暗鬼の眼を向けた。まさに「壁に耳あり、障子に眼あり」の時代であった。【所蔵：大阪教区教化センター】

公開講座 現代と真宗

原発と真宗

— 私たちはどこに立って
原発を考えるのか —



講師 藤井学昭氏

今回、「原発問題」をテーマにした3年連続の公開講座の最終回となります。第1回は西村秀樹氏に、ジャーナリストの経験とその視点から、原発の様々な問題をあぶりだしていただきました。第2回は嶋橋美智子氏に、被曝労働でご子息をなくされた母親としての立場からお話いただき、原発問題を共に考えました。そして第3回は、真宗の視点から原発問題を考えるため、講師に藤井学昭氏をお呼びします。藤井氏は茨城県東海村にお住まいで、1999年に起きたJCO臨界被曝事故を風化させないために語り続けておられます。ぜひご予定ください。

日時 2014年4月10日(木)
午後7時~9時30分
会場 高山別院御坊会館
(岐阜県高山市鉄砲町6番地)

入場
無料

飛騨の真宗

伝承散歩② 池佛如来

いけぶつによらい

莊川町黒谷浄念寺

昔、莊川黒谷村の浄念寺に、道立という僧侶がおりました。お寺に伝わる、蓮如上人御直筆の真・草二幅の名号と上人御自作の木像、実如上人から受けた方便法身尊形や、証如上人御捺判の御文を大切に守り受け継ぎ、ご門徒と共に仏法聴聞の生活をしていました。そのころ、豊臣秀吉の命を受けた金森長近が飛騨に侵入。村中が焼け打ちになるのを恐れ、その御名号、御本尊、御文は三里ばかり離れた美濃国水沢上村(現郡上市明宝)の浄智という道場へ預けられました。ところが、天正十三年十一月二十九日(一五八六年一月十八日)の夜、白山大地震が起こって大山が崩れ、川が堰き止められて、水沢上村は人家悉く水没し、御名号、御本尊、御文の全てが水底に沈んでしまいました。道立は嘆き悲しみ、なす術なく途方にくれました。黒谷村から水沢上村へは山中峠を越す急峻な山道で、冬季は積雪多く、谷川は氷柱に覆われ、行く道を閉ざされるばかりです。道立は蓑笠に吹雪を防ぎ、かんじきをはいて降り積もる白雪を踏み分け、氷雪にあかぎれ・しもやけを患い



池佛如来
【浄念寺所蔵】

ながら水底を探し続けましたが、とうとう見つけることはできませんでした。三ヶ月が過ぎた頃、道立は池の底に沈んで御本尊のお共をする覚悟を決め、水際で端座して静かに合掌し念仏していると、白いさざ波の間から白木の箱が浮かんできました。道立はハッと驚き、すぐさま水中へ飛び込んで白木の箱を開けると、かねてお預けした御名号と御本尊、御文が水に少しも濡れずそのままのお姿を現したのです。道立は我を忘れ、喜び勇んで黒谷村へ飛び帰りました。道場へ着くや、夜の更けるのも忘れて一部始終を語り伝えるのでした。それ以来、このご本尊は、「池佛如来」と呼ばれ、大切に受け継がれているということです。※毎年三月二十二日、浄念寺では池佛如来御開帳の法要が勤まっています。

☎テレホン法話(0577)3423133 ○2月21日~28日:白尾宏氏「長圓寺」 ○3月1日~10日:澤邊恵亮氏「誓願寺」 ○3月11日~20日:江馬耀準氏「光雲寺」 宗教トラブル相談窓口(0577)3210763

女性と男の子

女と男の ナムアミダブツ①

藤場 芳子



ら いらしゃいぶつ イメージに しばられて

のでどうしたものか」と悩んでいるのでした。この女性やご両親は何にひっかかっているのでしょうか。おそらく男の子が赤のランドセルを背負っていったら、奇異な目で見られて学校で冷やかされたりいじめられるのではないかと心配しているのだと思います。個性が大切、個性を育てようなどと言われますが、个性的ということばが誉め言葉ではなく、皮肉だったりするのが現実です。

インシュタインは「常識とは人が十八歳までに積み上げてきた偏見である」と言っています。変人と言われたインシュタインならではのことばです。偏ったものの見方がものごとを素直に考える邪魔をしてしまいます。私たちは文化的・社会的につくられた「女らしさ・男らしさ」という常識がいつの間にか刷り込まれてしまっているのです。それを「ジェンダー」と言います。

今回のカルタの句は「らしさ」という イメージに しばられて」です。絵は「らしさ」というイメージの包帯でがんじがらめになっている私たちの姿です。この包帯は一体誰が巻いたのでしょうか。自分でしょうか。子どもが育っていく時に「女らしさ・男らしさ」という意識が初めて形成されるのは家庭だと言われています。赤のランドセルを欲しいと言っている男の子は、私たち大人世代がすでに身に付けている「らしさ」の縛りから自由な世界に生きているのだと思

性の違いによって、「男ならば〇〇するのが当たり前」「女は〇〇でなければならぬ」というように枠にはめ、さらに価値付けがされると性別別になります。例えば、男性の外科医なら有能だろうけれど、女性の外科医はそれ程でもないといった具合です。「勉強が嫌いでも男だから大学くらいは行っておけ」「女なんだから短大でいい。ましてや大学院なんて行ったら嫁のもらい手がなくなる」というようなことを言われたこと、言ったことはないでしょうか。これらの言葉は本人を思っていることで悪気はないのかもしれませんが、でも、「らしさ」があるべき」という考え方、つまり正しさに立った時、そうでない人に対して「〇〇のくせに」という批判に変わってしまうのです。

いきなりですが、なぜなのでしょう。ある日、男の子が交通事故にあい、救急病院に運ばれました。そこでその子を見た担当の外科医はびつくりしてしまいました。自分の息子だったからです。ところが、男の子の父親は外科医ではありません。一体これはどういうことでしょうか？

さて、冒頭のなぜなの答えはわかっていたでしょうか。答えは「男の子の母親が外科医」なのです。答えを知ってしまったら、なるほどそういうことかと思うのですが、私は初めてこのなぜを聞いた時、答えがわかりませんでした。わからないにはわからない理由があります。それは私たちが外科医と言え男性を連想してしまうからです。いつの間にか外科医＝男性という常識が私たちの頭にできあがってはいないでしょうか。ア

次回「私を照らすひかりの言葉②」です。

嘉念坊善俊上人法要並びに顕彰会総会

飛騨における真宗の祖、嘉念坊善俊上人の祥月命日にあたる3月3日、高山別院本堂において法要と総会を行います。総会後、講演会を行いますので、会員以外の方もご聴講ください。(無料)

日時 3月3日(月) 午後1時30分
会場 高山別院 本堂
講話 大町慶華 輪番
講題 「嘉念坊上人の御遺徳」

顕彰会会員募集

〈活動内容〉

嘉念坊善俊上人法要
総会・講演会
顕彰会会報 年1回発行
御坊文化講座 年3回
聖跡巡拝旅行 年1回
会費 年2,000円

聖教学習会

(全3回)

【第3回】

期日 3月7日(金)
時間 午後1時30分
午後4時30分
講師 安富 信哉 氏
(大谷大名普教教授)
講題 『唯信鈔』講義
— 法然から親鸞へ —

会場 高山別院
二階研修室
会費 無料

おしえてくみんせ

「おしえてくみんせ」



問 「おしえてくみんせ」は「おしえてくみんせ」ですか？
答 「正信偈」といって、親鸞聖人が書かれた漢詩・歌でありお経ではありません。お経はお釈迦様が説かれた教えをいいます。お釈迦様が説かれた数多くのお経の中でも、親鸞聖人が大切にされた『仏説無量寿経』『仏説観無量寿経』『仏説阿彌陀経』の三つを浄土三部経といっています。
「正信偈」は親鸞聖人が書かれた『教行信証』という書物の第二巻・

行巻の最後の部分です。お釈迦様の説かれたお念仏の教えがインド・中国・日本の七人の高僧を経て、自分にまで届けられた喜びをうたわれたものです。前半は親鸞聖人が真実経だと大切にされた『仏説無量寿経』のところが述べられ、その後そのころを明らかにしてくださった七高僧の教えが述べられています。この「正信偈」を勤めるといことは、声に出しその言葉をお聞きすることです。先達は「正信偈」を勤め、親鸞聖人の言葉をとおしてお念仏の教えを聞き、この私にまで届けられたおこころを喜んでいかれたのです。

春の彼岸会。永代経法要

亡き方を縁として仏法に出遇う大切な仏事です。ぜひお参りください。

3月18日(火)〜24日(月)
午後一時から勤行・法話

- 18日(火) 大町 慶華 (別院輪番)
- 19日(水) 江馬 雅人氏(賢誓寺住職)
- 20日(木) 三本 昌之氏(蓮徳寺住職)
- 21日(金) 三島 多聞氏(真蓮寺住職)
- 22日(土) 四衢 亮氏(不遠寺住職)
- 23日(日) 三島 清圓氏(西念寺住職)
- 24日(月) 中飯田正夫氏(寶蓮寺住職)

お彼岸期間中、本堂下にて御坊さま名物のおはぎやポストカード、東日本大震災被災地チャリティーグッズなどの販売を行います。お参りの際にはぜひお立ち寄りください。



ポストカード
高桑了英 版画